

## 上矢作養蜂場見学会

2023年9月16日

加地 浩

私は60歳でサラリーマン生活を終え、新たな第二の人生を夢見て、移住生活をはじめて12年経ちました。あこがれだけで始めた田舎暮らしは手探りで何もかもが新鮮で新たな発見の連続でした。

定年を控え、5、6年前から移住先を山梨県、長野県、三重県などに求め、現地を歩き回り始めました。そんなおり、名古屋中日ビルで行われた移住相談会に参加した際、恵那市串原の古民家のリフォーム塾を開催している奥矢作森林塾を紹介されました。

そして串原の賃貸コテージを拠点として本格的に移住先を探すことにしました。そこで3年間古民家のリフォーム活動をしなが、木工技術の習得、田舎暮らしの楽しさをアピールするイベントなども体験し、人脈も広がり恵那市で移住することを決心しました。

ところで、私は移住するにあたり3つの条件を決めていました。

ひとつは、登山が趣味で日本アルプスの周辺で住みたい、二つ目は雪下ろしのない地域であること、そして三つ目は畑仕事ができることでした。

そしてコテージの仮住まいから1年半後知人の紹介により現在住んでいる恵那市上矢作町に移住しました。

当初、何やら遠目で見られている気配を感じていましたが、地元の活動にも積極的に参加するなど親交を深めようと努めていました。そんな折に始めたのが日本みつばちの養蜂でした。庭先での巣箱の様子のお話や、みつばちのイベントなどの依頼を受けるなど交流が増え、今は多くの方々と知り合い、充実した毎日を送っています。

ところで、みつばちと人間の関係は1万年以上前から食料として生活していた様子が壁画でも描かれていたり、エジプトやヨーロッパでは5000年前から養蜂が行われていた記録もある。蜂がいなくなれば植物の受粉が行われなくなり我々の食物がなくなるだけでなく、その植物を餌にする動物達も生存できない。そのみつばちが今も年々減少し続けており、その結果、世界の農地の35%の収穫量が低下しているとも言われています。

農産物の1/3を受粉しているみつばちは、現在ネオニコチノイドやラウンドアップなどの農薬の普及や森林伐採など自然破壊による自然の減少のほか、病害虫、気候変動、遺伝子組み換え農作物などにより減少し、国内においても準絶滅危惧種に指定されています。

みつばちの減少は豊かな森の破壊を引き起こし、そのために川や海の水質悪化し、生物たちも減少し、いずれ我々の食料問題なることが明らかで、人間のエゴや拝金主義に偏らず、自然に感謝し、豊かな自然の保全、環境づくりを行う必要があると思います。

かの有名なアインシュタインは「ハチがいなくなれば人間は4年しか生きられない」とも語っています。

私は8年前から始めたみつばちの採蜜体験や巣箱づくりなどの講習会、また古民家のリフォーム塾で得た経験を活かし地元の間伐材で作った山小屋（あんきな家）を拠点として、田舎暮らしのおもしろさや自然保護の大切さなどを情報発信できればと活動しています。

## 1. 見学会のスケジュール

- |              |         |
|--------------|---------|
| ① 自己紹介       | 5分      |
| ② 座談会（あんきな家） | 90分     |
| ③ 養蜂場見学      | 30分     |
| ④ 解散         | 11時半頃予定 |

## 2. 座談会

テーマ

- ① 移住とコミュニティの形成  
移住の心得  
コミュニティの作り方  
養蜂とコミュニティの関係
- ② みつばちと森林との関係性について
- ③ みつばちと農業について
- ④ みつばちの話  
日本みつばちと西洋みつばち  
みつばちの生態  
女王蜂、働きバチ、雄蜂について  
（寿命、役割、天敵、）  
8の字ダンス？  
養蜂（分蜂、採蜜）